

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-061643

(43)Date of publication of application : 12.03.1993

(51)Int.Cl.

G06F 7/50

(21)Application number : 03-222833

(71)Applicant : MITSUBISHI ELECTRIC CORP

(22)Date of filing : 03.09.1991

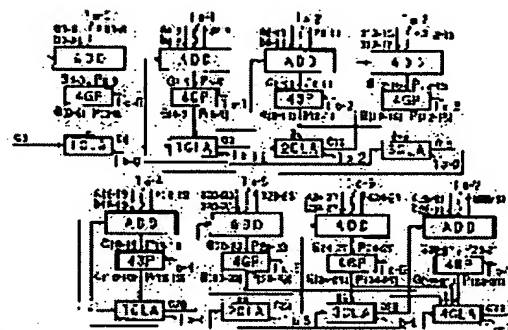
(72)Inventor : TSUJHASHI YOSHIKI
MATSUMOTO TAKASHI

(54) CARRY LOOK-AHEAD ADDER

(57)Abstract:

PURPOSE: To speed up carry propagation in an adder using a carry look-ahead system.

CONSTITUTION: The carry look-ahead system is hierarchically used for plural adders (ADDs) 1a-0, 1a-1... each of which forms a sum output, a carry forming signal and a carry propagation signal from two input signals to be added and a carry-in signal from a lower digit, plural carry formation/propagation signal forming circuits (4GPs) 1c-0, 1c-1... for inputting carry forming signals and carry propagation signals formed from respective ADDs and forming carry formation signals and carry propagation signals corresponding to plural bits and plural carry by-pass circuits (CLAs) 1b-0, 1b-1... for forming carry-out signals to upper digits from respective carry formation signals, carry propagation signals and carry-in signals from respective lower digits and the value of the initial CLA is constituted so as to be minimum in all the CLAs excluding the final CLA.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 14.11.1995

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 07.04.1998

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-61643

(43)公開日 平成5年(1993)3月12日

(51)Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

FI

技術表示箇所

G 0 6 F 7/50

G 9291-5B

審査請求 未請求 請求項の数2(全 9 頁)

(21)出願番号

特願平3-222833

(22)出願日

平成3年(1991)9月3日

(71)出願人 000006013

三菱電機株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

(72)発明者 辻橋 良樹

兵庫県伊丹市瑞原4丁目1番地 三菱電機

株式会社カスタム・エル・エス・アイ設計

技術開発センター内

(72)発明者 松本 尚

兵庫県伊丹市瑞原4丁目1番地 三菱電機

株式会社カスタム・エル・エス・アイ設計

技術開発センター内

(74)代理人 弁理士 高田 守 (外1名)

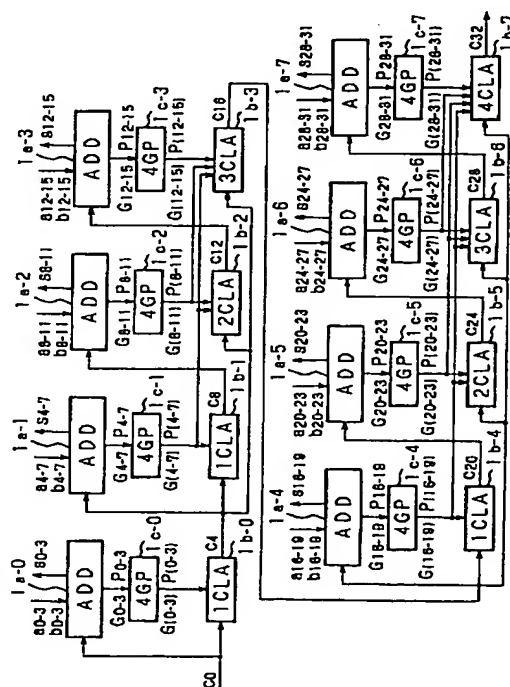
(54)【発明の名称】 キャリールックアヘッド加算器

(57)【要約】

(修正有)

【目的】 キャリールックアヘッド方式を用いる加算器において、キャリー伝搬をより高速化する。

【構成】 加算対象である2組の入力信号と、下位桁からのキャリーイン信号とから、和出力と、キャリー生成信号と、キャリー伝搬信号とを生成する複数の加算器(ADD)1a-0, 1a-1...に対して、それぞれが生成するキャリー生成信号と、キャリー伝搬信号とを入力とし、複数ビット分のキャリー生成信号とキャリー伝搬信号とを生成する複数のキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)1c-0, 1c-1...と、それぞれがキャリー生成信号と、キャリー伝搬信号と、下位桁からのキャリーイン信号とから、上位桁へのキャリーアウト信号を生成する複数のキャリーバイパス回路(4CLA)1b-0, 1b-1...とでキャリールックアヘッド方式が階層的に用いられ、初段に位置するキャリーバイパス回路(4CLA)の数が最終段を除く全てのキャリーバイパス回路(4CLA)の中で最小となるように構成する。



【 特許請求の範囲】

【 請求項1 】 それぞれが加算対象である2組のi ビットの入力信号と、下位桁からのキャリーイン信号とから、i ビットの和出力と、i ビットのキャリー生成信号と、i ビットのキャリー伝搬信号とを生成する複数の第1の演算回路と、

それぞれが前記各第1の演算回路が生成するi ビットのキャリー生成信号と、i ビットのキャリー伝搬信号とを入力とし、i ビット分のキャリー生成信号とi ビット分のキャリー伝搬信号とを生成する複数の第2の演算回路と、

それぞれがj ビットのキャリー生成信号と、j ビットのキャリー伝搬信号と、下位桁からのキャリーイン信号とから、上位桁へのキャリーアウト信号を生成する複数の第3の演算回路とを備えたキャリールックアヘッド加算器において、

前記複数の第3の演算回路は、

相互に入力のビット数j が異なり、且つ共通のキャリーイン信号が与えられる複数のグループを構成し、各グループ内の最大の入力ビット数の第3の演算回路のキャリーアウト信号が上位桁側のグループのキャリーイン信号として順次与えられ、

最下位桁側に位置するグループを構成する第3の演算回路の数が最上位桁側を除く他の全てのグループ中で最小となるようにキャリーイン信号が与えられていることを特徴とするキャリールックアヘッド加算器。

【 請求項2 】 最下位桁側に位置するグループを構成する第3の演算回路の数が1であることを特徴とする請求項1に記載のキャリールックアヘッド加算器。

【 発明の詳細な説明】

【 0001 】

【 産業上の利用分野】 本発明は2値ディジタル算術演算器であるキャリールックアヘッド加算器に関し、更に詳述すれば、階層的にキャリールックアヘッド方式を用いたキャリールックアヘッド加算器におけるキャリー伝搬の改良に関する。

【 0002 】

【 従来の技術】 マルチプロセッサ、DSP(ディジタルシグナルプロセッサ)等の演算部の中核はディジタルデータの加算機能により構成されている。代表的なディジタル加算器としてリップル(ripple)加算器が知られている。以下にまずリップル加算器について説明する。

【 0003 】 リップル加算器は1ビット全加算器にて構成される。全加算器は、加算対象である二つの数と下位桁からのキャリーインとを加算し、和とキャリーアウトとを出力する。全加算器のキャリーアウトは、隣合う上位桁のキャリーインとして機能するので、n個の全加算器をそれぞれ隣合う下位桁のキャリーアウトと上位桁のキャリーインとを順次接続すれば、nビットのリップル加算器を構成することが出来る。

【 0004 】 しかし、リップル加算器においては、ある桁の加算を行う前にその下位桁のキャリーが確定している必要があるため、演算実行時間は加算対象の数の桁数に比例する。従って、近年の処理ビット数の増大、即ち8ビットから16ビットへ、更に32ビットへの処理ビット数の増大に伴って、演算処理時間が長大化するという問題が生じつつある。

【 0005 】 このような問題の解決を目的として、キャリールックアヘッド方式の加算器が開発されている。代表的なキャリールックアヘッド回路は、加算されるべき所定数のビットを調べることにより、各ビットを加算して和を算出する前にキャリーアウトを発生する。従って、代表的なキャリールックアヘッド方式による加算器は、一對の4ビットをまとめて1グループとし、各グループにおける和を出力する前に次のグループへのキャリーアウトを供給する。即ち、キャリールックアヘッド方式による加算器は、全てのビットに互ってキャリーが伝搬する際のゲート段数を低減することにより、演算実行時間の短縮を図っている。

【 0006 】 以下、従来の加算器のキャリー伝搬について図面を参照して説明する。

【 0007 】 図1は32ビットリップルキャリー加算器の従来の構成例を示すブロック図である。

【 0008 】 図1において、参照符号4a-0, 4a-1...4a-31はそれぞれ1ビットの全加算器(FA)を示している。これらの全加算器4a-0, 4a-1...4a-31により、キャリーインと共に加算対象である二つの32ビットの数a及びbを加算し、和及びキャリーアウトを生成する。たとえば、最下位ビットである0ビット目の全加算器4a-0は、キャリーインc₀と加算対象である32ビット数a及びbの0ビット目a₀, b₀を入力し、和の0ビット目s₀と、1ビット目へのキャリーc₁とを生成する。

【 0009 】 同様の処理が1ビット目の全加算器4a-1でも行われる。即ち、1ビット目の全加算器4a-1は、キャリーインc₁、加算対象である32ビット数の1ビット目a₁及び32ビット数bの1ビット目b₁を入力し、和の1ビット目s₁と2ビット目へのキャリーc₂とを生成する。

【 0010 】 以下、同様の処理が2ビット目から31ビット目までの各全加算器4a-2, 4a-3...4a-31で順次反復されることにより、加算対象である32ビット数aと同じくbとの加算が実行される。

【 0011 】 以上のように、32ビットリップルキャリー加算器の場合には、逐次32回のキャリー伝搬が発生するため、1回のキャリー伝搬に要する時間の32倍の時間が経過した後にキャリーc₃₂が生成される。

【 0012 】 図2はキャリールックアヘッド方式の32ビット加算器の従来の構成例を示すブロック図である。

【 0013 】 図2において、参照符号5a-0, 5a-1...5a-7はいずれも4ビット加算器(ADD)を示している。これら

3

の各4ビット加算器(ADD)5a-0, 5a-1...5a-7により、キャリーインと共に加算対象である二つの4ビット数a及びbを加算し、4ビットのキャリー生成信号G、4ビットのキャリー伝搬信号P及び4ビットの和sを生成する。

【0014】参照符号5b-0, 5b-1...5b-7は4ビットキャリーバイパス回路(4CLA)を示している。これらの各4ビットキャリーバイパス回路(4CLA)5b-0, 5b-1...5b-7により、前段からのキャリーイン $c_0, c_4 \dots c_{28}$ と各4ビット加算器(ADD)5a-0, 5a-1...5a-7の4ビットのキャリー生成信号 $G_{0-3}, G_{4-7} \dots G_{28-31}$ 及び4ビットのキャリー伝搬信号 $P_{0-3}, P_{4-7} \dots P_{28-31}$ とから4ビットの上位桁へのキャリーアウト $c_4, c_8 \dots c_{32}$ が生成される。

【0015】各4ビット加算器(ADD)5a-0, 5a-1...5a-7*

$$c_{n+4} = G_n + P_n \cdot c_n \quad \dots(4)$$

【0020】また、各4ビットキャリーバイパス回路(4CLA)5b-0, 5b-1...5b-7の内部では以下の論理式(5), (6), (7)に基づいて演算が実行されている。

$$G_{(n-n+3)} = G_{n+3} + P_{n+3} \cdot G_{n+2} + P_{n+3} \cdot P_{n+2} + G_{n+1} + P_{n+3} \cdot P_{n+2} \cdot P_{n+1} \cdot G_n \quad \dots(5)$$

【0022】

$$P_{(n-n+3)} = P_{n+3} \cdot P_{n+2} \cdot P_{n+1} \cdot P_n \quad \dots(6)$$

【0023】

$$c_{n+4} = G_{(n-n+3)} + P_{(n-n+3)} \cdot c_n \quad \dots(7)$$

【0024】上記式(5), (6), (7)において、 $G_{(n-n+3)}$ 及び $P_{(n-n+3)}$ はそれぞれ4ビット分のキャリー生成信号及びキャリー伝搬信号である。このような論理式を実現するための回路構成としては既に種々の回路が提案されている。

【0025】ところで上述の論理式において、キャリー生成信号G及びキャリー伝搬信号Pは加算対象である数a及びbのみに依存しており、全ての桁において並列に実行可能である。従って、キャリー伝搬は各4ビットそれぞれについて1回であり、 c_0 から c_{32} までのキャリーの伝搬遅延時間は、リップル加算器の場合の約1/4に短縮される。但しより正確には、二つの32ビット数a及びbとキャリーイン c_0 とが同時に入力された場合のクリティカルパスは、最下位の4ビット加算器(ADD)5a-0へのa, b入力から他の全ての4ビット加算器(ADD)5a-1, 5a-2...5a-7を信号が通過するパスである。これは、 c_4 を生成する4ビットキャリーバイパス回路(4CLA)5b-0への入力 G_{0-3} 及び P_{0-3} が c_0 よりも遅いためである。

4

*の内部では以下の論理式(1), (2), (3), (4)に基づいて演算が実行される。

【0016】

【数1】

$$G_n = a_n \cdot b_n \quad \dots(1)$$

【0017】

【数2】

$$P_n = a_n \oplus b_n \quad \dots(2)$$

【0018】

【数3】

$$s_n = P_n \oplus c_n \quad \dots(3)$$

【0019】

【数4】

※【0021】

【数5】

※

【数6】

【数7】

【0026】図3は階層的にキャリールックアヘッド方式を用いた32ビット加算器の従来の構成を示すブロック図である。

【0027】図3において、参照符号6a-0, 6a-1...6a-7はいずれも4ビット加算器(ADD)である。これらの各4ビット加算器(ADD)6a-0, 6a-1...6a-7はそれぞれ、キャリーイン $c_0, c_4 \dots c_{28}$ と共に加算対象である二つの4ビット数a($a_{0-3}, a_{4-7} \dots a_{28-32}$)及びb($b_{0-3}, b_{4-7} \dots b_{28-32}$)を加算し、4ビットのキャリー生成信号G($G_{0-3}, G_{4-7} \dots G_{28-32}$)、4ビットのキャリー伝搬信号P($P_{0-3}, P_{4-7} \dots P_{28-32}$)及び4ビットの和s($s_{0-3}, s_{4-7} \dots s_{28-32}$)を生成する。

【0028】参照符号6c-0, 6c-1...6c-7はキャリールックアヘッド1階層目の回路である4ビット分のキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)である。これらの各4ビット分のキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)6c-0, 6c-1...6c-7はそれぞれ対応する4ビット加算器(ADD)6a-0, 6a-1...6a-7が生成した4ビットのキャリー生成信号

5

$G(G_{0-3}, G_{4-7} \dots G_{28-32})$ と4ビットのキャリー伝搬信号 $P(P_{0-3}, P_{4-7} \dots P_{28-32})$ とから、4ビット分のキャリー生成信号 $G(\quad)$ ($G_{(0-3)}, G_{(4-7)} \dots G_{(28-32)}$) と4ビット分のキャリー伝搬信号 $P(\quad)$ ($P_{(0-3)}, P_{(4-7)} \dots P_{(28-32)}$) とを生成する。

【0029】また、参照符号 6b-0, 6b-1...6b-7はキャリールックアヘッド2階層目の回路であるキャリーバイパス回路(1CLA, 2CLA, 3CLA, 4CLA, 1CLA, 2CLA, 3CLA, 4CLA)である。

【0030】各キャリーバイパス回路(1CLA, 2CLA, 3CLA, 4CLA) 6b-0, 6b-1, 6b-2, 6b-3にはキャリーイン信号 c_0 が入力され、それぞれ対応する4ビット分のキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP) 6c-0, 6c-1, 6c-2, 6c-3及びそれより下位側のキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP) 6c-0, 6c-1, 6c-2, 6c-3が生成した1ビット, 2ビット, 3ビット, 4ビットのキャリー生成信号 $G(\quad)$ ($G_{(0-3)}, G_{(4-7)}, G_{(8-11)}, G_{(12-15)}$) とキャリー伝搬信号 $P(\quad)$ ($P_{(0-3)}, P_{(4-7)}, P_{(8-11)}, P_{(12-15)}$) とを入力としてキャリーをバイパスする。

【0031】また各キャリーバイパス回路(1CLA, 2CLA, 3CLA, 4CLA) 6b-4, 6b-5, 6b-6, 6b-7にはキャリーイン信号 c_{16} が入力され、それぞれ対応する4ビット分のキャ

$$G_{(0-3)} = G_3 + P_3 \cdot G_2 + P_3 \cdot P_2 \cdot G_1 + P_3 \cdot P_2 \cdot P_1 \cdot G_0$$

【0035】 $P_{(0-3)} = P_3 \cdot P_2 \cdot P_1 \cdot P_0$

【0036】また、キャリールックアヘッド2階層目の回路であるキャリーバイパス回路(1CLA) 6b-0では4ビット、同(2CLA) 6b-1では8ビット、同(3CLA) 6b-2では12ビット、同(4CLA) 6b-3では16ビットそれぞれ上位へのキャ

$$c_8 = G_{(4-7)} + P_{(4-7)} \cdot G_{(0-3)} + P_{(4-7)} \cdot P_{(0-3)} \cdot c_0$$

となる。

$$\begin{aligned} c_{12} = & G_{(8-11)} + P_{(8-11)} \cdot G_{(4-7)} + P_{(8-11)} \cdot P_{(4-7)} \cdot G_{(0-3)} \\ & + P_{(8-11)} \cdot P_{(4-7)} \cdot P_{(0-3)} \cdot c_0 \end{aligned}$$

となる。

$$\begin{aligned} c_{16} = & G_{(12-15)} + P_{(12-15)} \cdot G_{(8-11)} + P_{(12-15)} \cdot P_{(8-11)} \cdot G_{(4-7)} \\ & + P_{(12-15)} \cdot P_{(8-11)} \cdot P_{(4-7)} \cdot G_{(0-3)} + P_{(12-15)} \cdot P_{(8-11)} \\ & \cdot P_{(4-7)} \cdot P_{(0-3)} \cdot c_0 \end{aligned}$$

となる。

【0041】ここで、 c_0 から c_{32} までのキャリーの伝搬遅延時間を考える場合、二つの32ビット数 a 及び b とキャリーイン c_0 とが同時に入力された場合のクリティカルパスは、最下位の4ビット加算器(ADD) 6a-0への加算対象である二つの32ビット数 a 及び b の入力から4ビット加算器(ADD) 6a-0, 4ビット分のキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP) 6c-0, キャリーバイパス回路(4CLA) 6b-3, 同じく 6b-7(4CLA)へと信号通過するパスである。これは、キャリーイン c_{16} からキャリーアウト c_{32} を生

6

成するキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP) 6c-4, 6c-5, 6c-6, 6c-7及びそれより下位側のキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP) 6c-4, 6c-5, 6c-6, 6c-7が生成した1ビット, 2ビット, 3ビット, 4ビットのキャリー生成信号 $G(\quad)$ ($G_{(16-19)}, G_{(20-23)}, G_{(24-27)}, G_{(28-31)}$) とキャリー伝搬信号 $P(\quad)$ ($P_{(16-19)}, P_{(20-23)}, P_{(24-27)}, P_{(28-31)}$) とを入力としてキャリーをバイパスする。

【0032】なお、最終段以外の各キャリーバイパス回路(1CLA, 2CLA, 3CLA, 4CLA, 1CLA, 2CLA, 3CLA) 6b-0, 6b-1, 6b-2, 6b-3, 6b-4, 6b-5, 6b-6がバイパスしたキャリーアウト信号 $c_4, c_8 \dots c_{28}$ はそれぞれ次段の4ビット加算器(ADD) 6a-1, 6a-2...6a-7にキャリーイン信号として入力され、初段の4ビット加算器(ADD) 6a-0にはキャリーイン信号 c_0 が与えられる。

【0033】4ビット分のキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP) 6c-0, 6c-1...6c-7では、前述の式(5)及び(6)と同じ演算が実行される。たとえば、最下位の4ビット分のキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP) 6c-0では、以下の演算を実行する。

【0034】

※キャリーアウト c_4, c_8, c_{12}, c_{16} を生成する。たとえば、キャリーバイパス回路(1CLA) 6b-0では、

$$c_4 = G_{(0-3)} + P_{(0-3)} \cdot c_0$$

となる。

【0038】キャリーバイパス回路(2CLA) 6b-1では、

【0039】キャリーバイパス回路(3CLA) 6b-2では、

【0040】キャリーバイパス回路(4CLA) 6b-3では、

成するのは、キャリーバイパス回路 6b-7(4CLA)の1段のみであるが、キャリーアウト c_{16} を生成するキャリーバイパス回路 6b-3(4CLA)への入力であるキャリー生成信号 $G(\quad)$ 及びキャリー伝搬信号 $P(\quad)$ がキャリーイン c_0 よりも遅いためである。

【0042】

【発明が解決しようとする課題】以上のように構成され動作する階層的にキャリールックアヘッド方式を用いた従来の加算器では、キャリーをバイパスする回路の内の最も下位桁に配置されている回路への入力信号の到達時

7

刻が均衡せず、加算器のキャリー伝播をより高速化する上での障害となっている。

【 0 0 4 3 】本発明はこのような事情に鑑みてなされたものであり、階層的にキャリールックアヘッド方式を用いる加算器において、キャリー伝搬をより高速化することを目的とする。

【 0 0 4 4 】

【課題を解決するための手段】本発明に係るキャリールックアヘッド加算器は、加算対象である2組の*i*ビットの入力信号と、下位桁からのキャリーイン信号とから、*i*ビットの和出力と、*i*ビットのキャリー生成信号と、*i*ビットのキャリー伝搬信号とを生成する複数の第1の演算回路に対して、それぞれが各第1の演算回路が生成する*i*ビットのキャリー生成信号と、*i*ビットのキャリー伝搬信号とを入力とし、*i*ビット分のキャリー生成信号と*i*ビット分のキャリー伝搬信号とを生成する複数の第2の演算回路と、それぞれが*j*ビットのキャリー生成信号と、*j*ビットのキャリー伝搬信号と、下位桁からのキャリーイン信号とから、上位桁へのキャリーアウト信号を生成する複数の第3の演算回路とでキャリールックアヘッド方式が階層的に用いられ、複数の第3の演算回路が、相互に入力のビット数*j*が異なり、且つ共通のキャリーイン信号が与えられる複数のグループを構成し、各グループ内の最大の入力ビット数の第3の演算回路のキャリーアウト信号が上位桁側のグループのキャリーイン信号として順次与えられ、最下位桁側に位置するグループを構成する第3の演算回路の数が最上位桁側を除く他の全てのグループ中で最小となるようにキャリーイン信号が与えられる。

【 0 0 4 5 】

【作用】本発明に係るキャリールックアヘッド加算器では、加算対象である2組の*i*ビットの入力信号が下位桁からのキャリーイン信号と第1の演算回路で加算され、*i*ビットの和出力と、*i*ビットのキャリー生成信号と、*i*ビットのキャリー伝搬信号とが生成される。各第1の演算回路が生成した*i*ビットのキャリー生成信号と、*i*ビットのキャリー伝搬信号とは各第1の演算回路に対応する第2の演算回路に入力されて*i*ビット分のキャリー生成信号と*i*ビット分のキャリー伝搬信号とが生成される。これらは*j*ビットのキャリー生成信号と、*j*ビットのキャリー伝搬信号と、下位桁からのキャリーイン信号としてそれぞれが複数の第3の演算回路に入力されて上位桁へのキャリーアウト信号が生成される。この際、最下位桁側に位置する第3の演算回路のグループを構成する第3の演算回路の数が最上位桁側を除く全ての第3の演算回路のグループの中で最小となるように構成されているので、下位桁側に配置されている第3の回路がキャリー信号をバイパスさせることによる入力信号の到達時刻を均衡させ、加算器のキャリー伝搬が高速化される。

【 0 0 4 6 】

8

【実施例】以下、本発明をその実施例を示す図面に基づいて詳述する。

【 0 0 4 7 】図4は本発明に係る階層的にキャリールックアヘッド方式を用いた32ビットキャリールックアヘッド加算器の一構成例を示すブロック図である。

【 0 0 4 8 】図4において、参照符号1a-0, 1a-1...1a-7はいずれも4ビット加算器(ADD)である。これらの各4ビット加算器(ADD)1a-0, 1a-1...1a-7はそれぞれ、キャリーイン*c* (*c*₀, *c*₄...*c*₂₈)と共に加算対象である二つの4ビット数*a* (*a*₀₋₃, *a*₄₋₇...*a*₂₈₋₃₂)及び*b* (*b*₀₋₃, *b*₄₋₇...*b*₂₈₋₃₂)を加算し、4ビットのキャリー生成信号*G* (*G*₀₋₃, *G*₄₋₇...*G*₂₈₋₃₂)、4ビットのキャリー伝搬信号*P* (*P*₀₋₃, *P*₄₋₇...*P*₂₈₋₃₂)及び4ビットの和*s* (*s*₀₋₃, *s*₄₋₇...*s*₂₈₋₃₂)を生成する。

【 0 0 4 9 】参照符号1c-0, 1c-1...1c-7はキャリールックアヘッド1階層目の回路である4ビット分のキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)である。これらの各キャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)1c-0, 1c-1...1c-7は、それぞれ対応する4ビット加算器1a-0, 1a-1...1a-7(ADD)が生成した4ビットのキャリー生成信号*G* (*G*₀₋₃, *G*₄₋₇...*G*₂₈₋₃₂)と4ビットのキャリー伝搬信号*P* (*P*₀₋₃, *P*₄₋₇...*P*₂₈₋₃₂)とから、4ビット分のキャリー生成信号*G*() (*G*(0-3), *G*(4-7)...*G*(28-32))と4ビット分のキャリー伝搬信号*P*() (*P*(0-3), *P*(4-7)...*P*(28-32))とを生成する。

【 0 0 5 0 】また、参照符号1b-0, 1b-1...1b-7はキャリールックアヘッド2階層目の回路であるキャリーバイパス回路(1CIA, 1CIA, 2CIA, 3CIA, 1CIA, 2CIA, 3CIA, 4CIA)である。これらの各キャリーバイパス回路(1CIA, 1CIA, 2CIA, 3CIA, 1CIA, 2CIA, 3CIA, 4CIA)1b-0, 1b-1...1b-7は、それぞれ対応するキャリーバイパス回路1b-0, 1b-1...1b-7(4GP)が生成した1, 1, 2, 3, 1, 2, 3, 4ビットのキャリー生成信号*G*() (*G*(0-3), *G*(4-7)...*G*(28-32))とキャリー伝搬信号*P*() (*P*(0-3), *P*(4-7)...*P*(28-32))とを入力してキャリーをバイパスする。

【 0 0 5 1 】キャリーバイパス回路(1CIA)1b-0にはキャリーイン信号*c*₀が、キャリーバイパス回路(1CIA, 2CIA, 3CIA)1b-1, 1b-1, 1b-3にはキャリーバイパス回路(1CIA)1b-0からのキャリーアウト信号*c*₄がキャリーイン信号として、キャリーバイパス回路(1CIA, 2CIA, 3CIA, 4CIA)1b-4, 1b-5, 1b-6, 1b-7にはキャリーバイパス回路(3CIA)1b-3からのキャリーアウト信号*c*₁₆がキャリーイン信号としてそれぞれ入力されている。

【 0 0 5 2 】そして、キャリーバイパス回路(1CIA)1b-0にはキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)1c-0からのキャリー生成信号*G*(0-3)とキャリー伝搬信号*P*(0-3)とが、キャリーバイパス回路(1CIA)1b-1にはキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)1c-1からのキャリー生成信

50

9

号G(4-7) とキャリー伝搬信号P(4-7) とが、キャリーバイパス回路(2CLA)1b-2にはキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)1c-1, 1c-2からのキャリー生成信号G(4-7) 及びG(8-11) とキャリー伝搬信号P(4-7) 及びP(8-11) とが、キャリーバイパス回路(2CLA)1b-3にはキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)1c-1, 1c-2, 1c-3からのキャリー生成信号G(4-7), G(8-11) 及びG(12-15) とキャリー伝搬信号P(4-7), P(8-11) 及びP(12-15) とがそれぞれ入力されている。

【0053】更に、キャリーバイパス回路(1CLA)1b-4にはキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)1c-4からのキャリー生成信号G(16-19) とキャリー伝搬信号P(16-19) とが、キャリーバイパス回路(1CLA)1b-5にはキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)1c-4, 1c-5からのキャリー生成信号G(16-19) 及びG(20-23) とキャリー伝搬信号P(16-19) 及びP(20-23) とが、キャリーバイパス回路(2CLA)1b-6にはキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)1c-4, 1c-5, 1c-6からのキャリー生成信号G

$$G(0-3) = G_3 + P_3 \cdot G_2 + P_3 \cdot P_2 \cdot G_1 + P_3 \cdot P_2 \cdot P_1 \cdot G_0$$

【0057】 $P(0-3) = P_3 \cdot P_2 \cdot P_1 \cdot P_0$

【0058】また、キャリールックアヘッド2階層目の回路であるキャリーバイパス回路(1CLA)1b-0では4ビット、同(1CLA)1b-1では8ビット、同(2CLA)1b-2では12ビット、同(3CLA)1b-3では16ビットそれぞれ上位へのキャリーアウトを生成する。たとえば、キャリーバイパス回路(1CLA)1b-0では、

$$c_{12} = G(8-11) + P(8-11) \cdot G(4-7) + P(8-11) \cdot P(4-7) \cdot c_0$$

となる。

30 【0061】キャリーバイパス回路(3CLA)1b-3では、

$$c_{16} = G(12-15) + P(12-15) \cdot G(8-11) + P(12-15) \cdot P(8-11) \cdot G(4-7) + P(12-15) \cdot P(8-11) \cdot P(4-7) \cdot c_0$$

となる。

【0062】ここで、 c_0 から c_{32} までのキャリーの伝搬遅延時間を考える場合、二つの32ビット数a 及びb とキャリーイン c_0 とが同時に入力された場合のクリティカルパスは、最下位から2 番目の4 ビット加算器(ADD)1a-1 への二つの32ビット数a 及びb の入力から4 ビット加算器(ADD)1a-1, 4 ビット分のキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)1c-1, キャリーバイパス回路1b-3(3CLA), 同じく 1b-7(4CLA)へと信号が通過するパスである。これは、 c_{16} から c_{32} を生成するのは、キャリーバイパス回路1b-7(4CLA)の1 段のみであるが、 c_{16} を生成するキャリーバイパス回路1b-3(3CLA)への入力G() 及びP() が c_4 よりも遅いためである。

【0063】ところで、 c_{16} を生成する回路は、図3 に示されている従来の回路の場合はキャリーバイパス回路(4CLA)6b-3であり、この回路へのクリティカルな入力G(0-3) 及びP(0-3) が4 個のキャリーバイパス回路(1CL

10

* (16-19), G(20-23) 及びG(24-27) とキャリー伝搬信号P(16-19), P(20-23) 及びP(24-27) とが、キャリーバイパス回路(2CLA)1b-7にはキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)1c-4, 1c-5, 1c-6, 1c-7からのキャリー生成信号G(16-19), G(20-23), G(24-27) 及びG(28-31) とキャリー伝搬信号P(16-19), P(20-23), P(24-27) 及びP(28-31) とがそれぞれ入力されている。

【0054】即ち、最下位桁側である初段側から順に、1 個のキャリーバイパス回路(1CLA)1b-0, 3 個のキャリーバイパス回路(1CLA, 2CLA, 3CLA)1b-1, 1b-1, 1b-3, 4 個のキャリーバイパス回路(1CLA, 2CLA, 3CLA, 4CLA)1b-4, 1b-5, 1b-6, 1b-7がグループ化されている。

【0055】4 ビット分のキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)1c-0, 1c-1 … 1c-7では、式(5) 及び(6) と同じ演算が実行される。たとえば、最下位の4 ビット分のキャリー生成/伝搬信号生成回路(4GP)1c-0 では、以下の演算を実行する。

【0056】

$$c_4 = G(0-3) + P(0-3) \cdot c_0$$

となる。

【0059】キャリーバイパス回路(1CLA)1b-1では、

$$c_8 = G(4-7) + P(4-7) \cdot c_0$$

となる。

【0060】キャリーバイパス回路(2CLA)1b-2では、

A, 2CLA, 3CLA, 4CLA)6b-0, 6b-1, 6b-2, 6b-3に接続されているのに対して、図4 に示されている構成の本発明の回路では、 c_{16} を生成するキャリーバイパス回路(3CLA)1b-3へのクリティカルな入力G(4-7) 及びP(4-7) は3 個のキャリーバイパス回路(1CLA, 2CLA, 3CLA)1b-1, 1b-2, 1b-3に接続されているため、配線長はより短く、負荷容量も少ない。

【0064】ここで、キャリーバイパス回路(2CLA)1b-2 と同(3CLA)1b-3とを比較してみる。図5 及び図6 はそれぞれキャリーバイパス回路(4CLA)1b-7と 同(3CLA)1b-3とをMOST ランジスタで構成した場合の回路図を示している。

【0065】図5 及び図6 において、参照符号p1, p2 …, p11, p12…はp 型 MOST ランジスタを、n1, n2…, n11, n12…はn 型 MOST ランジスタをそれぞれ示す。

【0066】図5 に示されているように、キャリーバイパス回路(4CLA)1b-7では、G() が入力されるp 型 MOS

11

トランジスタ P1, P2, P3, P4 が直列に 4 個必要である。しかし、図 6 に示されているように、キャリアバイパス回路 (3CLA) 1b-3 では P11, P12, P13 が直列に 3 個で済む。これは P () が入力される n 型 MOSFET トランジスタに関しても同様である。このため、同等の大きさの MOSFET トランジスタで構成した場合には、キャリアバイパス回路 (4CLA) 1b-7 よりも同 (3CLA) 1b-3 の方が G () 及び P () の入力から出力までの遅延は小さい。

【 0 0 6 7 】なお、上記実施例では 32 ビットのキャリールックアヘッド加算器について説明したが、32 ビット以外のビット数の加算器にも本発明が適用可能であることは言うまでもない。また、キャリールックアヘッド 1 階層目を構成するビット数が 4 ビット均一である場合を示したが、他のビット数でもよく、更に均一である必要もない。また、加算器のキャリールックアヘッドの階層が 3 階層以上であってもよい。

【 0 0 6 8 】

【 発明の効果 】以上に詳述した如く、本発明のキャリールックアヘッド加算器によれば、初段に位置するキャリールックアヘッド上位階層のグループを構成する下位階層のグループの数が最終段を除く全ての上位階層のグループの中で最小となるように構成されているので、クリ

12

ティカルパスとなる信号線の配線長が短くなり、負荷容量が低減し、回路規模が縮小され、このためキャリ一伝搬が高速化されるなどの優れた効果を奏する。

【 図面の簡単な説明 】

【 図 1 】 32 ビットリプルキャリ一加算器の従来の構成例を示すブロック図である。

【 図 2 】 キャリールックアヘッド方式の 32 ビット加算器の従来の構成例を示すブロック図である。

【 図 3 】 階層的にキャリールックアヘッド方式を用いた 32 ビット加算器の従来の構成を示すブロック図である。

【 図 4 】 本発明に係る階層的にキャリールックアヘッド方式を用いた 32 ビットキャリールックアヘッド加算器の一構成例を示すブロック図である。

【 図 5 】 キャリ一バイパス回路 (4CLA) を MOSFET トランジスタで構成した場合の回路図である。

【 図 6 】 キャリ一バイパス回路 (3CLA) を MOSFET トランジスタで構成した場合の回路図である。

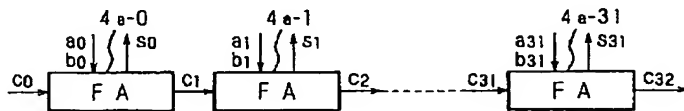
【 符号の説明 】

1a-1, 1a-2... 加算器 (ADD)

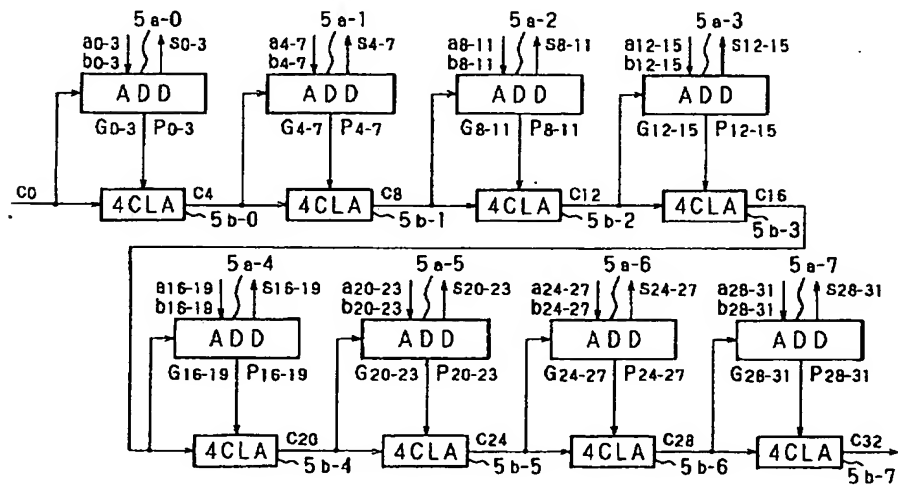
1b-0, 1b-1... キャリ一バイパス回路 (4CLA)

1c-0, 1c-1... キャリ一生成／伝搬信号生成回路 (4 G P)

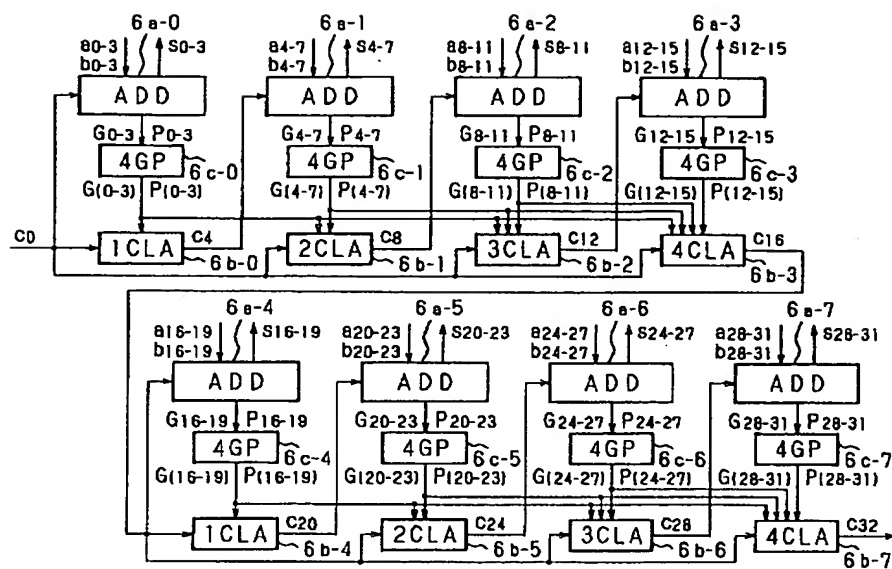
【 図 1 】



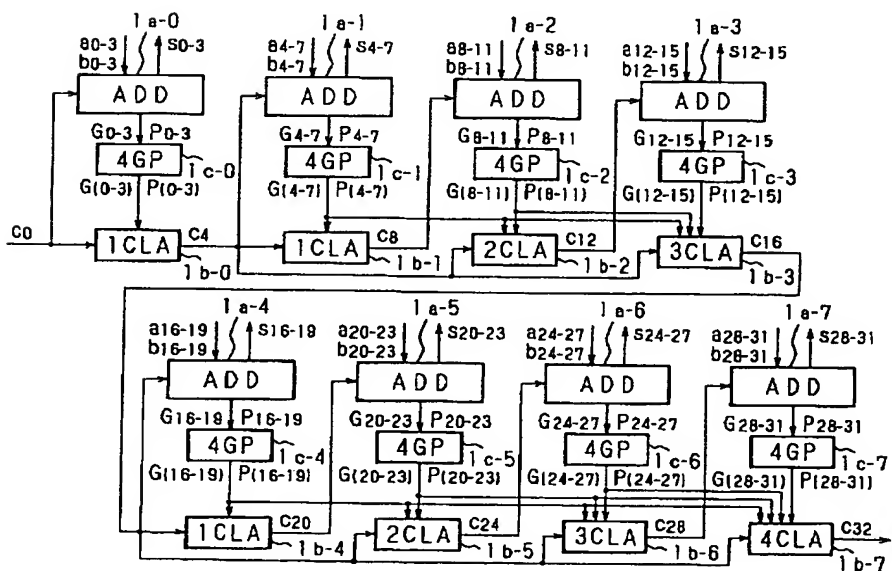
【 図 2 】



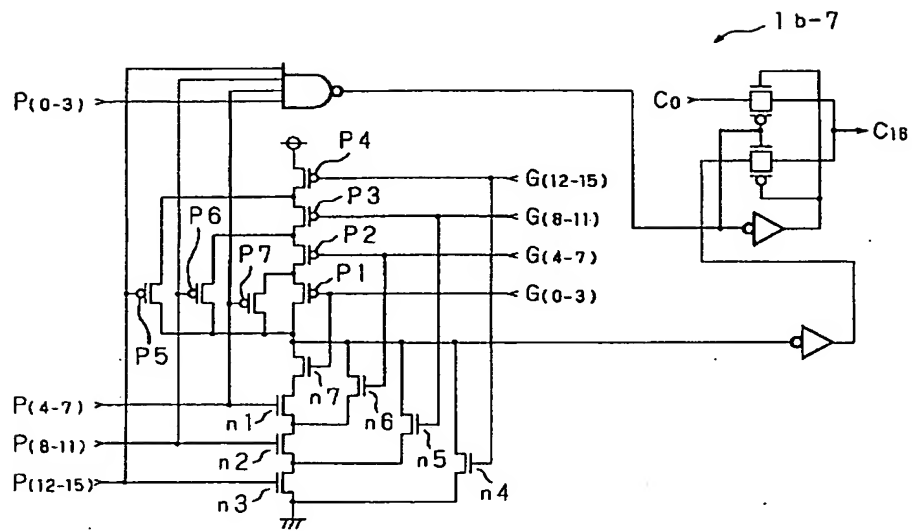
【 図3 】



【 図4 】



【 図5 】



【 図6 】

